

工業部会通信

(発行)
 かながわ経済新聞合同会社
 〒252-0239
 相模原市中央区中央3-12-3
 商工会館本館1階
 ※プリントしてご自由にお読みください。

かながわ経済新聞
 KANAOKI

TRYプロ 島根富士通を視察 先進的な生産技術触れる

工業部会TRYプロジェクトは、7月28、29日にかけて、I・O・Tの先進事例を探るため、島根富士通(島根県出雲市)の工場見学ツアーを実施した。富士通のノートパソコンの主力拠点である同社は、ものづくり日本大賞で「経済産業大臣賞」を受賞したほか、インテルとのIoT分野での協業するなど、先進的な取り組みを行っている。当日は工業部会から24人が参加した。



当日の視察に参加したメンバー



島根富士通の担当者から概要説明を受ける



担当者に積極的に質問をするメンバー



施設内で担当者の説明を熱心に聞く参加者

同社は従業員約1100人を擁する日本最大規模のノートパソコンの製造拠点。100%の受注生産方式で在庫は持たず、ユーザーの注文に応じてカスタマイズし生産、即出荷する体制を構築している。

このほか、検査や梱包、部品供給者などを含め、1つの生産ラインには、計約20人が携わる。工場内は、全部で20ラインが稼働。ラインの生産計画は、工場内モニターで見

える化されており、トラブルが起きた際は、すぐに対応が可能となっている。前日に定められた製品の生産スケジュールに基づき、1日あたり約300回の段取り変更をすることで、少量多品種生産の効率化を実現している。

また、パソコンの基板生産には、パラレルリンクロボットや垂直多関節ロボットを導入し、各種自動機などを導入し、完全な自動化をしている。各生産部門への部品供給は、生産のタイミングに合わせて、製品に必要な部品をピッキングし、随時供給しているが、これらは全て各社員が持つタブレットで指示されている。そしてウェアラブル端末でチェックがなされるミス防止を実現しているという。

築している。生産ラインでは、1台のコンベアに10、12人の組み立て担当者が従事。計60秒で1台のノートパソコンを完成させている。

前日に定められた製品の生産スケジュールに基づき、1日あたり約300回の段取り変更をすることで、少量多品種生産の効率化を実現している。

現在、作業の効率性や導入コストなどの面で、人の手による作業の方が効果が高いところは、ロボット化されていないが、今後はさらなる自動化の可能性も検討しているという。



ネジ締め作業を体験

様々な人間関係
 コツ伝授します
 9月4日に講座
 公益財団法人・相模原市勤労者福祉サービスセンター(あじさいメイツ)とサン・エールさがみはらは9月4日、ユニコムプラザさがみはら(南区相模大野)で「明日から使える! 人間関係なるほど心理講座」を開催する。相模原商工会議所、一般社団法人・産業精神保健機構の後援。時間は午後7時~同8時半まで。

講師には、和光大学心理教育学科の伊藤武彦教授を招く。職場や家族、恋愛など様々な場面で役立つ人間関係のコツを伝授する。
 参加無料。申し込みは、あじさいメイツ042(775)5505まで。

世界に通用する日本人の心を磨く。

LCA国際学園は、独自の英語イマージョン教育により、少人数クラス制での一人ひとりの個性を大切に授業で「国際感覚と日本人の心」を育てています。



最寄り駅・橋本駅 北の丘センター向かい

LCA国際小学校

検索



LCA国際学園

www.lca.ed.jp

〒252-0132 神奈川県相模原市緑区橋本台 3-7-1